

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成30年7月31日現在

今月の重点活動

■えだまめ 県GAP確認制度団体申請実施

7月5日、JAぎふえだまめ部会は、県GAP確認制度の団体申請を行った。農業普及課では、JAぎふ事務局と連携し、えだまめ部会員の自己点検・内部点検、並びに内部点検結果に基づく改善指導を行ってきた。今回、目標としてきた7月申請の準備ができた13戸が申請を行い、今後農場審査等が行われる予定である。

農業普及課では、引き続き関係機関と連携し、県GAP確認制度の円滑な推進を図るとともに、県GAP実践希望者の育成に向けて指導を行っていく予定である。



【改善指導の様子】

(園芸産地支援第一係・川部 知)

新たなブランドづくり

■にんじん 「にんじん料理・スイーツコンクール」2次審査実施

各務原人参ブランド推進連絡協議会（にんじん部会、各務原市、JAぎふ、市商工会議所、東海学院大学等で構成）は、7月7日に、東海学院大学において、「にんじん料理・スイーツコンクール」の2次審査を実施した。

第11回目となる今回は、料理・スイーツの2部門に分かれ、各部門の応募点数（各26、38点）の中から、6月19日に実施した1次審査通過者の各部門3名が会場で実際に調理し、10名の審査員（にんじん部会長、市、全農岐阜、JA等関係機関、市内の事業者等）が試食を通して、①料理の工夫、②料理の手軽さ、③世代を越えた支持、④メニュー化・商品化の可能性の観点から審査を実施し、各賞を決定して受賞者を表彰した。

農業普及課は、課長が審査員の一員として、担当職員も関係機関とともに開催運営を支援しており、今後も各務原にんじんのブランド化、産地活性化に向けた各種活動に対する支援を継続する。

(地域支援第二係・近藤 徹)



【受賞者と審査員】

多様な担い手づくり

■アスパラガス アスパラ塾（第2回）開催

7月13日、JAぎふ正木支店において、農業普及課とJAぎふが連携し、塾生8名を対象にアスパラ塾を開催した。農業普及課が講師として、は種から定植までの栽培ポイントについて説明した。

次回アスパラ塾は、8月中旬に岐阜地域のアスパラ生産ほ場を視察し、ハウスの形状等について説明する予定であり、農業普及課では、今後もJAぎふと連携し、アスパラガス生産者の確保と育成に向けて支援をしていく予定である。



【アスパラ塾の様子】

(園芸産地支援第一係・山田雅幸)

■指導農業士 経営情報交換会開催

7月30日に、JAぎふ本店において、岐阜地域指導農業士連絡協議会が経営情報交換会を開催し、指導農業士12人と関係者が出席した。

JAぎふ営農経済担当役員から、JAぎふの営農指導体制の改編を皮切りに、農業・農協を取り巻く情勢について情報提供を受け、各会員からも意見を出し合い、情報交換を行った。

新たな担い手確保に向けた地域ぐるみの支援体制について、活発な意見・要望が出され、当会とJAとの交流が更に深まる契機となることが期待される。



【情報交換会の様子】

(園芸産地支援第二係・市原志信)

売れるブランドづくり

■水稲 JAぎふ特別栽培米生産者研修会開催

JAぎふは、7月11日、アグリパークにおいて、生産者約50名の参加のもと、特別栽培米生産者研修会を開催した。

最初に、米穀に係る情勢報告や栽培記録記帳の徹底について説明があった後、県農業経営課の農業革新支援専門員から、「良食味米生産について」と題して講義が行われた。

また、他産地の特栽培米を含めた7種類の米の食べ比べも行われ、参加した生産者らは、良食味米生産へ向けて意欲を新たにしている様子であった。

特別栽培米の安定生産のため、農業普及課として、今後も引き続き支援していく予定である。
(地域支援第一係・小島康平)



【研修会の様子】

■オーガニック米生産に向けて 水田除草機の実演会開催

7月19日に、瑞穂市水田ほ場において、水田除草機「ウィードマン」の実演会が開催された。今年度から始まった製麺会社との連携によるオーガニック米生産に向けた取り組みの一環として、機械による水田除草のデモンストレーションを行った。

作土が深く、機械作業が難しいほ場であったが、4WD・4WSで順調に除草を実施した。作業速度は1時間当たり30a程度とされており、除草剤を使わない除草手段として可能性が示された。



【実演の様子】

(地域支援第三係・飯沼清敏)

■いちご 平成29年産反省会開催

7月9日、岐阜市内のホテルにおいて、JAぎふ岐阜市いちご部会が、平成29年産いちご反省会を開催し、約40名が出席した。

平成29年産いちごは、10月の天候不順や、台風による冠水・浸水被害及び冬季の低温により、年内出荷量は減少し、切りあがりも早かったものの、昨年より出荷の落ち込みが少なかったため、出荷量は前年並みとなり、販売金額は昨年よりやや増加した。

農業普及課からは、平成29年産の栽培上の反省点、新品種「華かがり」の取り組み状況について説明した。部会役員からは、出席者に対し、突風の被害を受けた会員のため、苗の確保や提供への協力を呼びかけられた。

今後、農業普及課では、今年の反省点を踏まえ、平成30年産の安定生産に向け、技術指導を行っていく予定である。
(園芸産地支援第一係・三和浩一)



【反省会の様子】

住みよい農村づくり

■環境保全型農業 GAP実施に向けた取り組み支援

羽島市内の土地利用型営農組織では、平成28年度から環境保全型農業直接支払交付金事業に取り組んでいる。同事業では、今年度から新たに、国際水準GAPの実施が要件化され、実施主体は、国際水準GAPに関する指導・研修を受けることが必要になった。

農業普及課では、7月9日、羽島市役所において、市担当者とともに、法人の代表者に対して、農林水産省の資料を基にオンラインによる研修を実施した。

実施主体は、国際水準GAPの具体的な内容についても理解を深める必要があるため、農業普及課では、今後も関係機関と連携し、指導を継続する。



【指導・研修の様子】

(地域支援第二係・今井啓司)